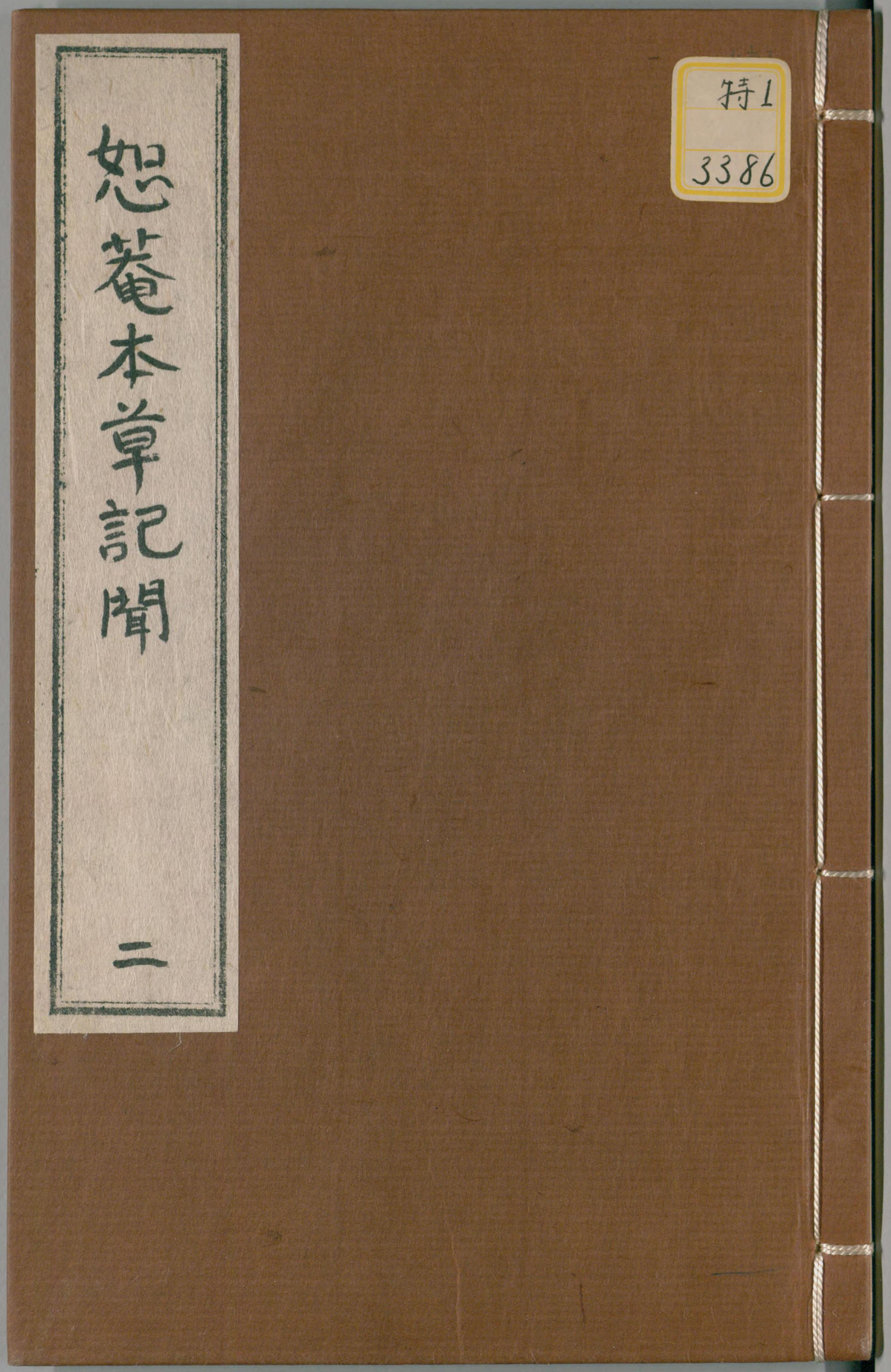
恕菴本草記聞

二



特1
3386

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386

ガラス使用

31.7.19

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386

ガラス使用

特1
3386

怨菴本草記聞

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386

ガラス使用

特1-3386

本草綱目記聞巻之二目録

草之五　隰草之類　七十三種
草之六　毒草之類　四十七種
草之七　蔓草之類　七十三種
草之八　水草之類　二十二種
草之九　石草之類　十九種
草之十　苔之類　十六種
穀之一　雜草之類　九種
穀之二　麻麦稲類　十二種
穀之三　穢菜之類　十八種
穀之四　菽豆類　十四種
穀之五　造釀類　二十九種

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386
ガラス使用

本草綱目記聞卷之二

平安　恕菴松岡玄達考訂

門人　甲賀敬元　熊谷玄隨　江村如圭　同校

他說　稻若水　貝原篤信　堀元厚

草之部　五

地黃　和產尤佳也　須知曰乾地黃熟地黃和產也近山城大和多植之賣于四方乾地黃者日乾火乾者名乾地黃熟地黃以酒蒸熟而成者也因方劑宜製用諸家本草有九蒸九曝之說是道家貴九故也因襲胡說而蒸則氣味共脫而不堪菜用不用信用蕭方輿說其年尤詳矣因列于左

明蕭方輿救正論云製炼之要其地黃大者須蒸晒至十餘次辟手開中有黑油如墨玉氣味甘香者方可用勿拘九數也又不必用

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386
ガラス使用

酒潤過方蒸蓋酒經蒸晒則成酸酢之味不為佳臨用時
先一夜切碎如豆大以酒潤之次早略蒸煦使兩物勻和
酒氣尚存菜氣益香動与胃合易于運行此雷敬
炮製之微義不可留意也
集 山白菜（救荒十四巻 載之 未詳）波々娵（与沙参
同名）地 攝（地ニフミツケタヤウニヒラタクナルナリ）
攝（ツキタスト云テ茎ノ七重ノ如クニ出ルモノヲ云フ）
生地黄（ホリタテ）乾地黄（ホリテマノアルカハリモノ）掘タテノマヽカハリ物 藥店ノ生地黄
熟地黄（九変ムシサラスモノ）胡面草（未詳 ホタル草カ）
牛膝（フシダカイノコツチ）或云凡家苑培養者謂牛膝野生
謂土牛膝也 救荒本草 脚斯蹬即牛膝之一名也実ヲ
ヤブシラミト云
集 土牛膝（先醒齋廣筆記曰蛤蚆草）
鼠負（ヲメ虫一名鼠婦）
紫菀（シヲン）有二種次之女菀歌学家ニ云ヲニノシユ

十五行

平野版

△蘭出于蘭 譜

クサ
女菀（ヒメシヲン）在蓺花家
麦門冬 凡有二種大葉者上品也其根肥大也味甘シヤブ
ラン中品小葉者ハシヤウガヒゲト云下品二種初生有白
筋者名間道麦門冬大葉者名珍珠一種ヲキナノ草ア
リ観音草ニ似タリ故又麦門冬ノ種類也
集 鹿葱（萱草之一名）氣味 青蘘（音箱
又胡麻葉）ヲキナクサ
萱草（ワスレクサ、ヒルナ）救荒本草 萱草名川
草 愛萱草之雅而忘故有忘憂名
集 水葱（ガマムシロ 福岡府志 萱草与鹿葱為二物
非也）黄萱花（李王安懋花疏木スゲノ葉ノ廣キ
モノ）槌胡根（稲氏云即萱草根也李園云萱草
重出乎）
浩 牛葉（サヽクサ）凡浩牛葉有四種蓋草一名浩牛葉

鴨跖草一名淡竹葉凡至四種（一種竹品有淡竹取其葉呼淡竹葉又此所載之淡竹葉合而四種）

鴨跖草（ツユクサ、アヲバナ、サヽリサ、アイハナ、カマツカツキクサ）賀茂方言ニ大郎ノ袴ト云救荒本草竹節葉与其円名翠胡蝶一名翠蛾蝟保命歌括一名瑞璃草

〔集〕彩羊皮燈（以羊皮張燈篭之卯在本邦薬山）

葵（カニアヲヒ、ツユアヲヒ）有紫茎青茎二種実曰冬葵子今本邦俗呼葵者即蜀葵嬰童百門葉為疱瘡小児服此草則無疱瘡之患

蜀葵（アヲイ）今俗ニツユアヲイト云テ花ヲ愛スル也此俗向日葵也一名西菊葵

兎葵凡有三種恭所説之石竜芮葉一種也其二種有本邦禹錫所説者未詳

〔集〕紫堵天葵（有三種朱鳳台医学集要一種入門一種綱目一種の門及集要曰紫堵天葵名葉下紅一種アメゴホウツキニ充然非紫堵ノ名義ユキノシタヲ云アメルカ未決或云西蕃葵者有於葵之後也一名一丈紅一名向日葵

冬葵子須知云俗称寒アヲイ又冬アヲイ凌冬不凋四月著小黄花不足観実似銭葵有少円少稜此古人植苑圃供菜料今種者希也野生多シ有青茎紫茎二種共通用今云花アヲイハ本草所謂荊葵戎葵也又ゼニアヲイアリ又錦葵銭葵ト云其二種不入薬用

黄蜀葵（トロロアヲイ、ヲヽスケ、ヲヽコウゾ、カミノキ）

〔集〕脂麻房（クロゴマノカラ）

竜葵（ウシホウツキ、イヌホウツキ）

〔集〕五爪竜（即鳥歛苗ビンボウカヅラ）水茄（ナカナスビ、ミヌナスヒ）

天茄子（牽牛子一名）苦識（イヌホウヅキ苦冬酸醤敗漿等有一名）排風子（白英三名ヒヨドリジヤウゴノ一名松岡氏云疑此別物）赤珠（山ホウツキ即竜珠）漆枯草（ヒヨドリ

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386
ガラス使用

ジヨウゴ　参園云別物乎　蜀羊泉（ヒヨドリジヤウゴ）（円エ一名雪裏珊瑚
又雪下紅）　燈籠草（ホウヅキ）
竜珠（ヤマホウヅキ）　叡山雲母坂ニアリ
酸漿（ホウヅキ）　救荒本草姑娘菜俗名燈籠児又名掛金燈
行厨集燈籠草曰絳嚢　（集）　落蘇（ナスビ）即茄
ノ一名
蜀羊泉（ヒヨドリジヤウゴ）　救荒名青杞一名羊泉又遵生八牋
曰雪下紅又花鏡曰雪裡珊瑚
鹿蹄草（イチヤクソウ　秘物）　在京都叡山
敗醤（オミナヘシ）　白花ヲオトコヘシト呼　黄花ノモノヲオミナ
ヘシト云　古今医統一名苦蘵草実白ヲ亢ツ黄色ナルモノ
亢ニス然モ皆無難也　（秋）　苦菜（貝母、竜葵又　一本作苋
名苦菜）　鹿腸（玄参ノ別名）
迎春花（ヲウバイ）　八閩通志曰黄雀児一名迎春花
辛夷又名迎春花

（集）　剪紅紗花（オランダセキチク）
款冬花（フキノトウ）　按史游急就章款冬橐吾為
一物者誤也ノ款冬ヲ誤注暮春風ト云モノ山吹ト取違ヘタ
ル也山吹ハ棣棠花也　（集）　橐吾（ツワブキ　形状款
冬ニ似タリ）　宕蓴（トミヲヘヌルヌナワ）
款冬ニ薬用者尽不開者佳也橐吾自然汁ヲ搾リテ用ユル
時ハ能治錫毒
款冬ノ半含半開之時採之開尽者気味脱隔未春初可採
奴和書ニ山吹ト訓ス絶テ誤也四条大納言公任卿朗詠集
ヲ択テ初テ山吹ト誤ルソレヨリ誤来或ハ酴醾ヲ山吹ト訓ス
非也　酴醾ハトキンイハラト云者也其花有白黄ハ紅之三種
汝南圃史全様ノ下ニ葉似酴醾形状能相似花又黄也ト云
ヲ以テ誤テ山吹ト心得タルモノナルヘシ
單菊草（ハハコクサ俗名）和名土行草七草ニ入ル　ハハヲギ
ヨウトト呼フ　（集）　欅（ケヤキ）　杷果（コケ）

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386
ガラス使用

決明（イヌナサンケ）苔干決明和産莫也一種実円而不尖
青王蓼百（蓼方ニ云ル合明草也不混救荒本草名望
江南花鏡名槐藤　芒　決明（茶也）
馬蹄決明草　決明（即青葙子）
集　江豆（即巴豆ノ名）　江戸（ハヽキン）
地膚（ハヽキヾ）　附録　茫芒（センダイギ）　石決明（アハビカラ）
草集要名千頭子　又ナニハヽ木ホウキヾトモ云灰藜集解云岐
女莖即地膚子苗也
眠起（カイコノ一ヘン桑又食ノ時一イキ休ムヲナリ）　釈　地葵（草耳別名）
蠶青（ナデシコ）　野生者佳也
集　洛陽花（サヽリヤウノ花）　古ニ才図会佐呼曰セキチリ和名ヤマトナデ
シコノ千葉ノ石竹三才図会所載之石竹也尤秘物和名オラン
ダセキチクノアンヤレン
映山紅（アカヾシ）近来一種オランダセキチリト云ヲ千葉而
色甚深紅多有毒不可入薬用アンヤレン、アン

シヤヒルト名鵝毛石竹有花弁前剪載似剪秋羅花弁
王不留行　和名ナシ有二種此武蔵通潅山生草物俗道
潅草ト云又一種又槐葉蔓生未知功能之中杏也
集　萩藍（大藍之別名）猪藍花救荒本草草ノ部所説之
猪藍花也形状詳救荒
剪春羅（ガンピ）　剪夏羅（フシクロ山草ノ類）
剪秋羅　尺蠖（シヤクトリムシ）　剪紅紗花（オランダセキチリ）
金盞花（キンセンクワ）
集　菩提薩　正二月茎葉春老而根枯早可採収遅則実脱
形状似苣苔細小花黄角菜形ノ如シ葉有毛草ニ但少苦味
薩陵一種味有苦者此真苦菜徹頭是
也然多雑混和産甜菩提之類也　本草ニ莫苦菜ト云
ニ元菩提非也
集　豹芹菜（或ハ車前（オホバコ））　又阿蘭陀オホバ
車前（オホバコ）　有大葉者朝鮮ノ産

有甘苦二種苦
ノ葉ホソナニ
メ白花ノアトニ
三葉線ノハケノ
如キモノヘ甘ー
ハ即ナツナ七ヤ
ニ入ル

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』　請求記号 特1-3386
ガラス使用

コト云上品也小者下品也大小二種○五福全書挾身酒中
作車錢子○救荒云一名牛衣一名勝舄菜○列子天詣篇
陸舄注曰車錢草也弘景說芣苢是本說不知菉竹堂
簡便方車前草即昂胡菜大葉小葉之二物功用同
狗舌草（サワオクルマ サワヂシヤ）有子葉四字葉二種子葉之物一名フ
ジサハキクト云（筑前方言）ウグザ
馬鞭草　須知和名クマツヽラト云鼠尾草ト云一名鼠尾
草ハミソハキヲ云ハ誤也救荒本草ニ水揚頗似馬鞭草花
釈　竜芽草（此別物也）
蛇含（オトコヘビイチゴ）稲氏云以三葉者為蛇苺以五葉七葉
者蛇含　釈　紫背竜芽（与蛇含別物也外科云
キラン草是ナリ花底ニホタル草ト云）
集　知時子（預知子ノ一名本部ニ見ヘタリ和名モダマ秘
物也）
女青（ヤイトハナ、ヲトリ花、ヘクソカツラ、スリフリ花）

十五行

発明　童即藤（此五大葉之蛇含草歟）
鼠尾草（ミソハキト云誤也）馬鞭草ノ一種救荒本草
云鼠菊草即是也保升所説者也在東武葉似馬鞭草
也　釈　陵翹（即連翹也）
狼把草（タウコキ ヲブロタ）三七葉ニ似タリ田野其外田沢
湿地多生ス花也
狗尾草（エノコロクサ）桜古今医説云牛膝一名秋穗草疑此
歟
鱧腸（古訓タヽラビ、サンライサウ、タカサブロウ、サフロタイクサ）
早連草有二種一種小連翹曰鱧腸「金陵草一種別
物也金陵草菉竹堂簡便方曰金陸草即黒斗草
鱧腸一名黒斗草見于正傳
連翹（一名軺郎出救荒本草）枝下垂者為小連翹多而揚
起者為大連翹小者充菜用以上二物也
集　椿実（或曰樗実之誤乎）椿不結実也此井蛙之見也

平野版

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386
ガラス使用

堀氏曰椿結実如草決明形一
和大山虫有二種小及大枝軟弱而下垂如垂柳藝花家タニワ
タリト名ク歪頭菜ト和名同不可混大連翹枝揚起而不
垂為異其結実稍少春初四年開黄花迎春花同時最可
愛

陸英（ソクズノハナ）宋本草陸英蒴藋為一類草部
陸英下附蒴藋綱目分為二物○馬志云蘇恭以陸英
蒴藋為一物今詳陸英味苦寒無毒蒴藋味酸温有
毒已者不同禹謂二種蓋其類尓之英一種水英（セリ）
陸英（クサダズ）　木英（メズ）　凡三種也

蒴藋（ソクズ俗呼クサダツ）
集　三葉　一種鳥頭一種紫花地丁一種芹凡此三種合謂之
堇

水英（未詳）　桜芹一名水英時珍説未可知古来之説水芹

藍（アヰ）　本邦處々有之者皆蓼藍也按藍有三種通

十五行

平野版

志云蓼藍染緑大藍如芥浅碧槐藍如槐染青三藍
皆可作澱諸藍之内蓼藍尤佳也
集　馬藍　菘藍　牛藍　木藍　甘藍（未詳）
発明　班蜘蛛（女郎クモ）

藍澱　澱ハヨドム心ニテ紺屋ノアイ壺ノ底ニ溜ルオリヲ云也
本邦菜店所謂青黛也即藍之澱也

青黛（アイロウ）有二種一種染家ノ藍壺ノ底ニタマル者ナリ
一種ハ蛤牡蛎殻ノ粉ヲ以テスルモノカ青黛藍澱ハアイハナ
一種画家ニアオハナト謂者ヲ用ユル鴨跖草花ノ汁ナリ
集　波斯青黛　江戸ノ俗ハツホウラント云者カ
附録　雀翹（可考）　甘藍（未詳）　稲氏有考然未
詳

蓼（タデ）本邦俗謂青蓼曰柳蓼葉長似柳葉故云是
古来之説也悪柳蓼者次之水蓼是也葉円者曰藍蓼
々類十余種入菜用者味辛可収必不可拘野生

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386
ガラス使用

青蓼（ヤナギタデ）　香蓼（カンタデ）　水蓼（柳ーニ
カウタテト云悪シ）　馬蓼（イヌタデ）　紫蓼（ムラサ
キタデ、タウタデアヰタデ）　赤蓼（葉内色赤者）
木蓼（マタヽビ）　野蓼（カハラタデ）
水蓼（ヤナギタデ葉大也茎長シカハラタテト云誤々）
馬蓼（イヌタデ、ケタデ）
〔集〕　墨記草（ハチノジタデ）　河内ニテスツポンタテト云　鼈
食之則吐血死故有其名）
茈草（ヲヽケタデ今秋楊子ニスルモノナリ）　毛蓼（ケタデ）
海根（ミズヒキ）　火炭母草（ヲシロイソウ秘物）
三白草（カタシヒクサ）（ハンゲシヤウクサ）　李固云凡有三種蔵器
蘇恭時珍之説可考邵武府志巻九三白草春初苗二三
尺葉大物理小識無穴刻青色至芒種前後其苗三葉
列続変白土人毎歳候其初有三白樹壱葉白挿袂至三葉
俱白則後時矣其根如菖蒲郡人多取以糟蔵之以為菜

十五行

平野版

此氣味三字一本作臭氣二字

茹老人及小児患瘡痘癒後輙拔取其根苗煮湯洗沐
謂其大能去風今郡之塚及諸泥中湿地皆有其物
蚕繭草（タテモドキ、サクラタデ）　蛇繭草（シカト知
ズ蔵器之説可考イヌイタドリ）
虎杖（イタドリ）　救荒云酸桶笋野譜曰筒草
〔集〕　南中虎杖（イヌイタドリト云非也）　班袖根（未詳）
蕕　蔵器所説者一種有李邦又一種似水蘇而味苦者有処々
也凡有其氣味者通称蕕也蔵器所説者竹夾菜也秘物也
時珍説蕕石香薷也左傳之蕕只言悪草耳非別有
草也〔集〕　結縷草（シヤシセンサウ、シハ）
萹蓄（ニハヤナギ）　〔集〕　落箒（前出ハヽキヽ）
水萹筑（未詳）　玉芻（薫草一名）
蘊草（カリヤス）　合和明器則為黄色也合和録器則為
褐色也稲氏別一種有考カリヤスハ前黄蘆也
〔集〕　恭所説者（附之有考稲氏云和名コブナソウト云

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386
ガラス使用

一本黒白二種ノ四字作黒白之二字互誤七字

乎是一種也秘スベシ）

蒺藜（ハマビシ）黒白二種アリ一名良藜即藜白藜ハ沙蒺藜也刺蒺藜常之蒺藜也

〔集〕馬藻子　蚕種子（未詳）赤根菜（ホウレンソウノ名）稲氏云蒺藜黒白二種白者有刺黒者無刺松岡云齋廣筆記云白蒺藜去刺云々此説合稲氏所説燦然明矣凡薬用以黒蒺藜本邦若狭之海辺沙上布地蔓生子有刺即黒蒺藜也白蒺藜一名沙宛蒺藜蒺藜即草伏生是非常用適四生散中用其用極稀也

蠹精草（ホシクサ）尾形名古屋コリン（一本方言コクシン）兎食此物姫路方言タイコノブチクサ山谷田畔有之一茎一花ノ者也一種救荒出宿星草

海金沙（スナクサ、カナツル、ナヽツリサウ、カニクサ、ヤキコメサウ、タヽキ草）沙トハ花ヲ云賀錫（ミツカ子）地楊梅（オニノヤガラ、ヲニシスヒキ）

十五行

平野版

西肥方言ムマカミクサ

〔集〕庚辛玉冊所説者真物也或云救荒所載竜芽菜古説為水楊梅今按此和俗所呼之大根草（タカラシ）

地蜈蚣草（ムカテソウ）或云古称雁足者非此物雁足即有名未用所説之地蜈蚣也又一種本邦之俗称草鐵焦者別有漢名即狗脊之一種

半邊蓮（ハタケムシロ、サンシヤウクサ、カラクサ）蕪子邪方言一名半枝蓮

紫花地丁（スミレ俗名スモウトリクサ）有紫白二種本名堇救荒（本草）云堇々菜在処々苗初地（布）増生葉似鈹箭頭様而葉間猟蕚開紫花者紫花地丁開白花者白花地丁也白花地丁之名出医宗説約

鬼針草（キツ子ハリ、ヌスビトクサ）武邪ノ方言ニセンタンクサ一名雅云穴鶏衣草即此物也

獨用將軍（未詳）附録　留軍得（未詳細葉之獨用將軍也）

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386
ガラス使用

見睡消（未詳）李圓云三七之類

攀倒甑（未詳）疑ハイヌハツカト云テ葉ノ間ニ繋花アルモノ平可考　水甘草（未詳）

草之部　七

大黄　和漢芳ヨリ錦文大黄為上品本邦山城出之

〔集〕牛舌片（和云ツギ大黄）　穿眼大黄（ツナキ大黄也）切片而如錢穿穀十片連繩陰乾南都之道路長池之辺（即大黄）　土大黄（即山大黄也）羊即羊蹄也花名金喬麦

商陸（山ゴボウ）有白赤二種葉ニハ用白花者赤花者有毒害人勿用

〔集〕篋（竹篭也）

莧陸（周易程傳說為一物非也朱子說馬齒莧与商陸為二物佳也人形者人參也）

狼毒（未詳）稲氏前說タカラカウ或云土大黄カ両說未決李圓云山大黄類弘景說防葵ト一ツニスルカテシナリ

防葵（木防風ケツリ防風牡丹人參イセ防風防風ゴシヤメンニンジン）　釈　房苑　大観作房慈

正誤　三建（鳥頭附子天雄合之曰三建）

狼牙（ダイコン草）稲氏曰大根草　甲氏云大葉大根草　熊氏云東武菜店所充之者非大根草別有形状似蛇苺者也大根草即救荒之竜牙菜也救荒所說之謂水楊梅者非也　甲氏又云大小葉用疱瘡染血熱也近来中山三柳用小葉味而甚得效菜及根煎用佳也

蔄茹（ノウルシ）塀根試茎中有糸而無心者蔄茹有心者大戟也　蔄茹大戟沢漆非之物大戟者謂根沢漆者謂苗蔄茹者謂茎中糸束而無心也

〔集〕草蔄茹（即甘遂之一名）

大戟（サハウルシ、キツ子ノチヽ（伏見方言）ノウルシ）漢渡多

偽物擇可用頌說葉似芍菜者未詳
澤漆（トウタイクサ　スヽフリクサ）
甘遂　和名ナシ　似大戟冬不凋在東武道淮山中濕地生○
小兒直決出草甘遂可考
鏡隨子（和名ナシ）在本邦無和名頌說可隨
莨菪（ヲヽミルクサ）タバコニ充ル非也大觀本草有畫真
物難知　集　水莨菪（即毛莨也ムマノアシカタ
花肆ニキンホウケト云）　天仙子（ウツキノ実モ同名）
雲実（シヤクケツイバラ）筑前方言カハラフジト云
釈　雲英（絡石之一名）　天豆（石竜芮一名）
集　鵲豆　藊豆之黒者名
蓖麻（俗名トウコマ　和名カラエ）経冬生者也
釈　牛蜱（牛虱ノ別名）
附録　博落迴（シシヤキクサ　チヤンバキク　充和黄芩非也
博落東国之楽也

常山蜀漆（コクサキ）根ハ常山葉ハ蜀漆
集　楸（雷電木（ハウテコブラ）　土常山（可考キアマチヤ）
楸（ハブテコブラ　キサゲ　雷電キリ）三四種有弘景說雞骨
常山恭說葉似茗者頌說葉似楸葉者是也
附録　杜莖山　杜紅山
藜蘆（シユロウソウ）武州道淮山但馬一ノ湯ノ後ノブキ山ニ在
其外佐州處々有之又一種ヒトツホクロト云モノアリ是リロノ一
種也或云クマカヘ草アツモリ草又リロノ一種水リロ未詳和
方ニリロト云ハヲモトヲ用佳也古来ヲモトニ充然ヒヲモトハ千
年蓋ニシテノ別也須知云藜蘆漢渡有真偽宜撰用和
邦従古称藜蘆者ヲモトノ根也不可用近年京都四辺従山中
出下品也東国ニ出者有之種真也本草ニ葱管ノモノト云
東国ノ種是也京都四辺山中ニヨタハ木藜蘆水藜蘆山慈
石参果根馬腹根ノ類ニテ真者稀也ヲモトハ漢名千年
蓋也三才圖會遵生八牋花鏡ニ見タリ絶テ別物也

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386
ガラス使用

烏頭 トリカブト根 葉生ノモノヲハナカヅラト云

釈 山葱（苤葱別名）
秀ツ果根（三物有和産）馬勝根（未詳）
本綱蕘曰 稲氏考ヲリ和名ニソホトヽキス
ノ如キ者也 今年ノ附子ハ明年
ヽ有之
附子 烏頭之帝ニ付リ生ヒ子ノ
烏頭トナルナリ自蜀来者為上品
本邦俗呼トリカブトヽヽ
ホヽシテ軽者不可入薬用本草ニモ
唐ニナシト云モノ佳也 唐目一斤
百六十両ニ附子ノ数十六ナル
ヨリ云 故呼十六銭甘方譜 野生名草烏頭
一物也 蜀花皇有為上品
天雄 イボナキハ天雄ナリイボアルハ附子也 天雄ノ先ノ尖リタルヲ
天針トス 腐婢（アヅキノハナ）
側子 附子ニ又ツキタルモノナリソヽリコトヽス
漏蘆子 附子ノ生テホヽシテ節ヨリヌケルモノナリ
烏頭（トリカブトノ根ナリ）一名僧鞋菊 一名小烏明出輟耕録

【附録】 山慈石

蕘生ノ烏頭アリ蘂花家ニテ花カウラト云
白附子（ヒメウヅ、トンボリサ）珣所説者尤佳也
虎掌天南星（ヘビノマクラハチ、山コンニヤク、ノイチハノシャクシ）
稲氏所説者非一種別物也南星有茎白文班星芸挙而立
葉也由跋三葉也花肆ニテムサレアブニト云
象 虎膏（未詳）
由跋（オハンゲ）蕘花家ニテムサレアブニト云芸女子ニ妻ヨ
也 正誤 烏翼（ヒアフキ ムサレアブシ
カニスアフキ）
蒟蒻（コンニヤリメマ） 苣ヒ薩草（未詳）
羊眼半夏（カラスビシヤク） 江戸方言水タマ 羊眼半夏近来処々有
之大乃往ヨト云者非半夏由跋ヨリ云カ消疫ノ功リナシ李飩
別録以来ノ説ナルベシ甲斐国家ホクトソウト云モノ一種ノ大半夏也
蛍休（未詳 一本ハタヽマ） 江戸方言おこテンソウト云李邦芸集
肆呼金線重楼金線ヲトリチカヘタルモ

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』　請求記号 特1-3386
ガラス使用

釈　紫河車（胞衣ト同名也用法可択用也）
重甘堂（名秀則名可択用也）
鬼臼（ヤマノルマ）天台山中多生物宜入薬
八葉草
射干（ヒアフギ　カラスアフキ）
黄蝴蝶（ヒアフキ）　紫胡蝶（イチハツ）　白蝴蝶（シヤガ）
又胡蝶花ト云須知之一名鳥翼又鳥扇松岡説見須知
丹渓ノ称ス　射干者、鳥尾也不見真射干
集　丹渓又云鳥尾為射干故曰紫色梭也再渓之所誤
而実無紫色花　射干依之以黄花者為射干耳
弐鳥尾（イチハツ）時珍曰即射干之雷也梭也説未免牽強
時珍見弐鳥尾未見射干矣　△紫鶴仙（紫花ホ
玉簪（ギボウシ）　凡有三四種　△
大葉者（土俗方言ニカウライキボウシ
葉ノ青ヲ云）

△山東紅い山
道子ノ名ニ

杜鵑花サツキ
羊不喫草ノ草
羊躑躅ノ重
当手

向道花（節ギボウシ）
鳳仙（ツマベニ、ツマクレナイ、赤子ヌキ、おうセこりハ）　鳳仙花（サキ
ワケ）　薩州方言トビシヤゴ
紫茉莉草（未詳）　附録　押不芽（詳統医説）
曼陀羅花（朝鮮アサカホ　カホリ茶アサカホ）　天雨曼陀羅説雅
是別物也
羊躑躅（レンゲツジ、モチツジ）　咸曰白花ノツヽジ人食シ毒ニ中ル
片い勿忘草トシテ死ス　桜白花者中毒児モアリ　白花
アリ未見死者或人有羊躑躅三限ラズ淡紅色ヤリトモ班猫
マムシノ類其花ニ触テ毒アルモノナラン松茸ノ毒ニ中ルモ如
此去皮食い毒ニ中ルヿサナシ山立産有是難甚多タメシ
集解中路谷多山杜鵑殺人ニ々ル謂山杜鵑有二種潜
確類書所説有毒又無毒
確所説与此一物乎　山杜鵑者潜
映山紅（オホキリシマ）　山石榴（アカツヽジ）　紅躑躅（キリシ

平野版

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386
ガラス使用

マ　山躑躅（羊躑躅之重出字）

芫花（シゲンゲ）稲氏ノ考也黄芫花ホウコ草ト云又芫花一名同名異也芫花俗ニフゲモトキト云紫黄有二種

〔釈〕児草（知母ノ別名）〔集〕紫荊（牡荊ノ一名）

芫花（即黄芫花也）　醉魚草（可考）在伊豆國

莽草　凡有三種宗奭所説シキミ夢溪筆談所説者辛夷也未詳頌説一種蔓生ノモノナリ弘景所説者ミノゴメト也食無妨

釈　芒草（形シキミニ似タリ別物ヘ和名アリメノアツト云者ヘ）　集　茵菜子（未詳）

茵蕷（一本シマイモ）

石竜芮（メカラシ、メニラコ）　弘景説生于石上云々此即鏡面草（ウツラクサ、カヽミリサ）宗奭天灸者毛莨也水生者石竜芮也陸生者毛建草毛莨恭説又別有一種

毛莨（ムマノアシカタ、コカ子ハナ）千葉ハ毛莨單葉者毛建草也葉大也和名ウシノシタト云皆一物也花肆ニテ千瓣ナルモノ、キンポウゲト云

〔附録〕海薑陰命（未詳）

牛扁（ゲンノシヤウコ、タチマチクサ）木曽ノ方言ホツケバナ花肆ニテフラキク此物治痢甚印アリ性涼也又葉能治疔腫奇也

〔附録〕虱建草（未詳）　水竹葉（イボクサ）

イラクサ　コブナメ一種也）　山丹（ユリ）

蕁麻（ヲイラ　ヤマニラ　コナクサ　イラクサ　マムシクサ）

葉似麻葉莖共ニ有細刺百姓家之石垣多生之刺ニテサシタルニハ塩湯小便之類可洗之

〔集〕花桑（葉有岐者ヲ云）

格注草（シダ、ヤマクサ、ウラシロ）此物有毒草類之中如何首年多用之未可知有大小二種大ナル者大シダ小ナルモノ小シタト云也

海芋（未詳）江戸染井花肆ニアリヒトヘノレンゲニ似タリ葉芋ニ似タリ其外北国ニ多有花皮ヲ被テ出ツル者也

〔附録〕透山根（未詳）　金英草（可考）

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386
ガラス使用

鉤吻　亢有蔓独茎二種然称鉤吻者有数種亢有毒者通
名鉤吻断腸草也雑路ノ山ニ独生ノモノアリ（ウシロコレト云
蔓生（ツルウルシ）　山ウルシ（メニウルシ）　独生（子ズミコロ
シ　ヒトコロバシ　大ベリ（加加方言）ウマアライウギ（佐久方言）
サルコロシ（西国ナベワリト云）

【集】鳥葛（トウカメハズ）　羅勒（メボウキ）

樒柳花（樒之一名）　鉤吻葉柿ニ似タリ　ヒイラギナンテント
云モノヤ　【正誤】弘景説独生也本条鉤吻之説不分蔓独
両論故諸説紛々タリ

小草（独生ノモノナリ）　金要蘭（茶蘭）

玫瑰（ハマナス）

草之部　七

菟絲子（子ナシカズラ　俗ニウシノクソメ）松蘿三物通ス兎絲
子因草生初生ノ時ハ根アリ後ハ根ナシ須知云ヘ草生蔓

延スルモノハ菟絲子ナリ　　粗豆（ヒシゲマメ）

【附録】【異】雚（未詳）　再云ヘル雚ハ雚ノ字

須知云草蔓延上莖黄色実ノ色ハ女青ニ似テ小也一處
竹藪生ス内子甚堅実也古人香ニ依附スルモノト云ハ誤ナリ
（アルハ女蘿也草生而蔓延スルモノハ菟絲子也）

五味子（南北二種アリ北五味子ヨシ即朝鮮也和産皆南来味子也
北五味子（サネカヅラ）ヲ正品トス遼五味子ト呼者也当用佳也南五味子和名サネカヅラ
ツラフ（ツルムラサキ）

【集】落葵（ツルムラサキ）

艾蓬菜（クサイチゴノ葉）　松圃云艾蓬菜者云葉畧覆盆実
也時珍説艾蓬菜覆盆為二物非也並不実ノ以別二物非二種ナリ
雅説亢良民説並似野薔薇者在江ノ西ノイバライチゴトス云

【集】樹生艾蓬菜（即木苺ナリトウイチゴ、キイチゴ）

覆盆子（トツクリ甲斐　イチゴ、クサイチゴノ実）　越前ヨリハイ
坂ノ之産上品ナリ或云九谷覆盆子有イチゴノ様名覆
盆子陰乾用胞痛ニ効有

【釈】大麦苺（ゴショイチゴ、クマイチゴ）

【集】茅苺（蛇苺也一種時ニラスト云アリ年中有実）又一種唐イチゴト云アリ甚大ナリ）

挿田藨蒔田藨割田藨（皆フユイチゴ時珍綱目ニ分三種）

懸釣子（キイチゴ）松岡曰古来以懸釣子呼（キイチゴ）蛇伊地後是偏見也樹苺又謂蛇伊地後可也有刺者通有懸釣之名又云大麦苺小麦苺者以大麦之生時而言非形之大小也

【集】金櫻（ナニハイバラ）地棠花（一本作堇花）ヤマブキト云ヘ氏山吹ハ是ヨリ後ノ名也

蛇苺（クチナハイチゴ、ヘビイチゴ）蛇苺五月四日ノ朝露ヲ帯フルヲ取リ腫物ノ類ヲ治スルヿ甚奇（妙ナリ）

使君子（未詳）華舶載来者真物也須知云漢渡只一種有ノミ真也和名無之

木鼈子（未詳）番木鼈（マチン）（或云大中故毒則用豆腐而解毒馬錢マチン産ル者也）

馬兜鈴（即青木香）東武産上品也京師所在者不結実無実則無鈴之名謂馬兜鈴則用実謂青木香則用根也和呼麝香草有実者青木香ニ充非也馬兜鈴無実者魚拈子也馬兜鈴絶無和麝香草有蔓独之二種茅店土貫物備物也

榼藤子（和名モタマナリ）ヒヨント訓スルハ非也ヒヨンハ蚊母樹也故物秘）

【集】茅瓢（インロウ）

【附録】合子草（可考）

預知子（可考解毒者也）

牽牛子（アサカホノ実）一名天茄白花者名白丑方書出黒丑之名和名アサガホ有黒白二種黒者黒丑白者白丑実白花碧色者アリ槿ヲ以為牽牛子誤也槿ハムクケ也共ニアサカホト訓ス

【釈】殷成式説疑合子草一物而非故牽牛子

平野版

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386　ガラス使用

集 梂子核（山査子ノ一名） 棠梂子（即山査子）
木猴梨（アリノミ）
旋花（ヒルガホ） 一名皷子花仙台方言アメフリハナ
釈 纏枝牡丹（損軒子云カサクルマ松岡云トケイソウ）
紫葳（ノウゼンカヅラ）
営実墻蘼（ノイバラ） 営実ハ謂実墻蘼謂葉也墻
蘼四時開者謂長春也花酒屋忍冬酒ト呼此花也大
大便秘結服之甚効 杜棠子（即甘棠）
月季花（テウシユン） 群芳譜云一名長春花々有紅白淡三
色云々月令廣義云花類長春按月開花雪中又茂
有緋白二種凡開謝即剪去其蔕則尤蕃茂
集解 闘雪紅（サンセウイバラ）ハ若水考也
括樓（カラスウリ、クソウリ）本邦茱萸呼柿実瓜括蔞
実黄色也王瓜ハ実赤者佳也
集 王瓜（タマツサ） 壺蘆（ヒヤウタン）

十五行

王瓜（タマヅサ） 京師カラスウリト呼也
釈 馬咆瓜（スヽメウリ）出救荒本草者与此別也
葛（クズ） 葛有野葛家葛別一種野葛者与此異也毒草
也詳鉤吻条須知云漢土種家園者名家葛和皆野
生也
釈 此三名別物尓雅可考 附 鐵葛（未詳）
黄環（可考） 狼跋子（シラクキカヅラ、カラクキカヅラ）稲氏以
櫓豆充黄環後廃此説
天門冬（スヘルクサ古訓）一名沙四維樹天台山四明之洞有物
集 絲杉（貝原子 アヤスギ 松岡子ヒメスギ）
百部（キヂカクシ） 有什葉薯蕷葉二種近来出之一名
百条根名百奶 附録 白并（未詳）
何首烏 本邦之俗呼何首烏者苦蔞也一名黄独和
名ケイモト呼フモノアリ本草曰巣言并之詳也苦蔞
出鎖江府志邵武府志及致富奇書

国立国会図書館 タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386
ガラス使用

附録　食其物無益有損々積止利疾人絶勿食
苦蔞ハ何首烏異品也苗ノ狸苗蔞同物異名也
当何首烏非也
〔釈〕夜合（合歓之一名）

草之部七

草薢（ヲニトコロ、エトコロ）時珍所説之菝葜也
菝葜（サルトリイバラ、備后ニテホテクヒ）江州ニテ山帰来カラタ
チト云勢州ニテカンタチイバラ佐州ニテカナイバラ
凡有三種葉円者ジヤリケツイバラト云少長者サルト
リイバラ又有長葉蔓生者時珍所説之草薢是也
土茯苓（サンキライ）本邦絶無之故者蛍有和名未見其
物華舶載来阿馬港産者上廣東者又良琉球者硬而
不佳
〔釈〕硬飯（茜草一名也又集験方云過山竜即硬飯

十五行

過山竜作過岡竜非也壽世保元所載江竜者舟ノ
コクソ也）
白蔹（ホド秘）古説ニカヾミソ草ト云非也救荒名土蠻児
女萎（トコロ、アマドコロ）
赭魁（未詳）唐ニテハ以其物毛氈ヲ染ヲ又シヤムロ染ヲス
ル也土卵ハホドノ一名也然此ニ云ハ未可知ホドハ土蠻児也
〔集〕輪囷（正字通曰属曲盤戻貌）
鵝抱（未詳）伏鷄子（未詳）附録　仰盆
人肝藤（未詳）
千金藤（可考）一種荷葉千金藤或云イチヤク草カ
〔附〕陳恩岌（未詳）
九仙子（可考）鳥桕葉（和名トウロウ　トウキウ
ハセリ　姫路法花山ニアリ）
山豆根（未詳）有二種和ニアテル者アリ頌説廣南者
如小槐高尺余者有考コヤノナキ草カ壽世保元曰俗

平野版

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386
ガラス使用

名金鎖匙　集　石鼠（ケラ）

黄藥子　一本　ウシノシタイ　可考

解毒子（可考）　釈　地不容（稲子云不当作芙）

附　奴會子（未詳）　又盧會一名与此不同　菜実根（未詳）

白菜子　首所説者天花粉頌説別物恭説括樓根也　附　甘家白菜（可考）　陳家白菜（未詳）

會州白菜（同上）　突厥白（同上）　衡州根（同上）

威靈仙（クカヒサウ）　群芳譜所説蔓生威靈仙即鉄仙也　一本鉄脚仙ニ作ル

茜草（アカ子）　附　血藤（疑茜草之重出乎）

前カ草（オモト　尤秘物可考）

防己（ツヽラフジ　アヲツヾラ）　仲景ノ木防己ト云ハ茎ヲ用漢防己ト云ハ根ヲ用葉三角者一角者有二種

通草（アケビカヅラ）　実名蕊覆子　和産佳也　呼唐通

十五行

草者非真物乃葡萄也

通脱木（山トウシンニ充ル非也）　ムベト云者之秘也）　救荒

ニ野末瓜乃是也　附　天壽根（未詳）

釣藤　今云テウトウカウ也　和ニアルモノハ葉円也　本国ニテハ甲州ニアリ　西国ニテハ熱ニ即ニアリ　葉有鋸歯

極テ青シ　附　倒掛藤（疑一物）

黄藤（可考）

白兎藿（未詳）　大葉三角草　敦佐及津山ニ有和名ナシ

白花藤（未詳）

白英　大和本草及多識篇ノ和名　ホロシ　ヒコドリジヤウゴト云然ルホロシヒヨトリシヤウコハ蜀羊泉ノ和名ナリ　白英ハ即柳葉ノホロシト云トキハ佳ナリ

釈　実名鬼目　蜀　通雅所載者別種也　椿一名鬼目　本園云　白英独羊泉為二物者非也　蜀羊泉

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』　請求記号 特1-3386　ガラス使用

条中所説之諸姑草当出各条也

蘿藦（カヽイモ、トンボノチヽ、ガウガメウル、イカイモ
カトリクサ）　千金方一名　苦花

集　構（カシ）　氣臭（ヘクソカヅラ）　蛇銜（キウ
ソウ）

一本　シハハソバ　一種ウナギトリバラト呼物アリ

赤地利（シバソバ）　回春　杠板帰（イシミカワ）通治内及済世全書万
密齋保名歌括等説其形状詳也和名石ミカワ打
撲傷損ヲ治スル焼霜而酒服其功最速也古来以
充赤地利然赤地利ハ根菝葜ノ如シ此根ハ細小不相
類ト云共是亦赤地利ノ一種也凡此類数種アリ大葉
者細葉者独生者蔓生者有刺者無刺者此一類而
打撲傷損ヲ治スル皆同可用

紫葛（ガネフ）　松岡云蘡薁多岐者即紫葛也

集　蘡薁（イヌブドウ　ヤブタヨシ　クロブドウ）　本草

鳥蘞苺（ビンボウカヅラ、ビンボウツル）　救荒肱股藍是

十五行

平野版

○薜荔

也鳥蘞苺以実言五爪竜以葉言也又曰鳥蘞苺以
実名之白蘞以根名之白蘞者根白鳥蘞苺者実
黒也氣腫累瘧等煎服鳥蘞苺佳也又葉搗
貼佳也○詩経所言者鳥蘞苺也晦菴先生為白蘞
者未詳

葎草（カナムグラ）　一名　葛勒蔓
猪殃々（ツネノムグラ　ヤヘムグラト云非之）八重ハ其繁蔓
重ナルヲ云

羊桃（ヒヨドリジヤウゴニ充非之）　詩経秦風ニ出シダ
レモヽト云モノナリ

絡石（テイカカヅラ）　或云絡石テイカカヅラト云ハ非之テイカ
カヅラハ即蘞苺ナリ　釈　石血（セキダカヅラ）
絡石和名テイカカヅラ葉似橘花白色多樹木垣籬ヲマ
トヒテ生ス其石上ニアルハ葉少而至秋色赤本草ニ赤
血ト名ク俗名セキダカヅラ是又少葉ノ絡石也石上樹

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386
ガラス使用

上ニ不拘可通用

木蓮（イタビ）　多識篇マサキノカツラト云非也　イタビハ木蓮花ノ訓ニテ木蓮ト訓スル非也　按木蓮ハ木蓮房ノ略本草遺言曰木蓮房木蓮ノ葉ニテイカカヅラヨリガサガサトスルモノ也　大サニ寸許花ツバキニ似タリ

附地錦（ツタ）　秋紅葉スルモノ

扶芳藤（可考）　常春藤（キヅタ　フユヅタ）

千歳葉（即常春藤）　集　鬼挑（羊桃之一名）

忍冬（スイカヅラ）　和産真也

釈　鷺鷥藤（銀山ヨリ出ル銀ノツルヲモ路鷺藤ト云ナリ）

左纏藤　他ノ草ニ皆右旋ス忍冬ノミ左旋ス故有左纏藤之名按故荒有左纏藤以藤以時之先後記之則網目次救荒然則可從救荒

甘藤（ツルアマチヤ、ハカンサウノ）　附録　甘露藤（未詳）

甜藤（即甘藤）

含水藤　信品山中有此物甲氏云今本邦之俗社塔等ニ於テ木ヲ伐テ血出或水出按是非血含水藤類カ一名諸藤

附　鼠藤（未詳）

天仙藤（未詳）　疑　重出乎甲氏云因回春医学正傳則青木香乎

紫金藤（未詳）

南藤（可考）　ヤマカキ　ツルムメモドキ）　輭枣（ヤマカキ）

同名異物也一名シナノカキト云是ナリ

釈　石南藤　南藤（是二物ナルヤシ）

附　列節（即続断茂ナリ鎌倉産者別也似三角草）　清風藤（未詳）　一ホワクノテ、ムズヲシ

冬ツタノ類）

百稜藤（未詳）　省藤（即萪茂ナリ常茂一名雀藤）

紫藤（フヂ）　落雁木（加及城及辺有其物似絡石）

附録　折傷木（未詳）　錦囊秘録所謂折傷木者カシ

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386
ガラス使用

逆一作逝

ボリノ　毎始王木（三角草キツタ）
千里及（未詳）　与千里為一物（医宗粹言ニ云キリン草
ノ花ニ似テ石上ヲ這フモノ）
藤黄　今画工所用雌黄也　コシラヘモノニ石菜ノ雌黄
トハ遠ヒナリ
附　地竜藤（未詳）　竜手藤（未詳）　牛領藤（同上）
牛姉藤（未詳）　鬼膊藤（三及ヨリヤブナシト云者近
来出ル此物ニ充非也ヤブナシハ即猕猴藤也）
蔓遊藤（可考）　含春藤（即常藤乎）
此外数名未詳故省畧之

草之部八

澤瀉（サジヲモダカ）　丹後江及産多後人誤為慈姑
大非也慈姑損骨精近江産尤佳也沢瀉蒴草一物
有根謂沢瀉無根云蒴草　詩経朱註及尓雅陸

十五行

璣云蕢者水瀉也此説非也蕢者即節續草也救
荒云蕃菜即沢瀉也無根之沢瀉也須知云和有二
種仙台丹後産為上品江及産為下品或曰凡通剤為
好軽虚堅実為悪引燈草茯苓之類為証誤也菜
物主治難詰究意量臆度以琥珀拾芥磁石吸鐵以
道理不可詰究今沢瀉亦然也丹後産実而性全江
及産軽虚而性悪丹後産可為上品今菜店通用者
丹後仙台多上品也
蒴草（無根ノ沢瀉也）
羊蹄　スイトウ　ギシ〳〵　シノ子ナ　牛ノヒタヒ　牛ノ舌　和大黄
集　硫石（シンチウ）
酸模（スカンホウ　スイヘラ）　仙台ニテスカナト云木曽ニテスイコキ
大坂ニテスイハ筑前蒋岡ニテスイベラ　スイバラ丹波方言
甲氏云菜方雑記所謂杜鶏脚黄連即酸模乎
釈　蕹蕪（尓雅註疏謂蕪菁者非也）

平野版

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386
ガラス使用

三葉酸母草（スイモクサ　スヽメノハカマ）
麕舌（可考秘ヒルムシロ）　蔓菁菜（カブナ）
山大黄（此即土大黄乎）
附録　牛舌実（此即羊蹄乎）
竜舌草（ミヅオホバコ）本邦処々在水中西国ニノ水ホコリ
ト云　菘菜（ハタケナ）
菖蒲（セキセウ）和ニ人家庭陰之産供盆翫者石菖蒲
也歌ニヨムアヤメト云ハ此菖蒲也本邦菜肆所賣菖蒲
者泥菖蒲也
泥菖蒲　今端午挿屋者（是也一名溪蓀）「外科啓玄云一名溪蓀木
臘一名「望見消一名陽春雪即真石菖蒲一寸九節者佳
也按不可拘九節以肥大為佳謂九者道家尊九数故如
斯猶神道尊八数也石上菖ハ花菖蒲水菖蒲則泥
菖蒲白菖
銭蒲（コマセキセウ又糸セキセウ又高ライセキセウ）

白菖（セウブ）五月五日用者松岡云泥菖白菖者俗名
而溪蓀者雅名也
〔釈〕昌陽（此別物也）
呉瑞家傳曰用本草曰池沼生者名菖旧端午以泛酒
生石澗者名菖蒲可入薬用曰今本邦俗拠此説往々端
午日以白菖挿屋上者非也可以菖蒲挿屋上矣
香蒲（ガマ）　須知曰一種有重臺者名水燭出府志可
通用　蒲黄（カマホ）
〔集〕白蒻（シロ子）　正字通云音若蒲蒻也蒲初
生中心白状如匕柄者曰蒲蒻也甘脆可食集白者曰水莖
入泥処曰蒻　莞（マルスゲ）白芷一名水葱一名
菁茅（三脊茅一名）
燕麦（チヤヒキクサ）
菰（マコモ）〔集〕鳥欝（今日本ノ婦人所用ノマコモ
ナリ）　杜詩彫菰（即菰実也）　苦草（カミソ

十五行
平野版
松岡氏
一本昌陽
一本此二字ナシ

極

リクサ伏見方言）

水萍（ウキクサ）ウキ草黄色也ムラサキノ者堀ナドニアルハ紫萍草也雜草中ノ満江紅是也細カニ青者萍也大萍田字草

蘋（ウキクサ）一名田字草葉蓴ニ似テ一莖一葉也萍ハ一莖二葉也ウキクサ古来大蘋ト云大蘋ハ浮萍蓴シテ云也

集 苔（アサヾ）青蘋（スイモノクサ）

萍蓬草（カウホネ）集 睡蓮（ヒツジグサ）須知云和方打撲傷損方中ニ入而特有功庸医為苔菜者荇菜也別与此不同

苔菜（アサヽ）字彙曰苔与荇行通

蓴（ヌナハ、ジユンサイ）時珍食物本草曰名蓴生南海附石生莖長二三寸色青而涎滑如油脂又光瑩如水晶莖間有椏々中生花形円如豆葉大於銭卷而如慈

十五行

平野版

一本得一本ノ三字於怡顔齋ノ四字ニ作ル

姑葉姜豉烹之甚美今按石蓴陳蔵器注水菜部石蓴者与此蓴混説宜辨名別

釈 茆（又女菀之一名）馬蹄（以葉形名）

水藻（モ）川モノ惣名 海藻（ホンタハラ、ホタハラ）本邦云神馬草是也

海蘊（古説モツクニ充ル未詳モツクハ漂苔ナリ）

海帯（ツルモ、アラメト云ハ非也）

昆布 コンブト呼ハ和名ニアラズコブト云ベシ朝鮮人称昆布者ワカメナリコンブワカメト同類珣説ワカメナリ

越王餘算（アマモ、ウシヤナギ）秘也紀而和歌浦及越中北条津ト云処ニアリ

附 沙著 稲氏説此非藻之属乃介之属也加及海濱有之形如枯木皮薄肉有肉長二寸許聞人声則隠俗呼曰シヽラト疑此物乎或云此即竹蛭乎按延喜享甲子之秋得一本見以沙著為筆管者名竜鞭草

国立国会図書館 タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386
ガラス使用

△離樓 正字通曰 參差貌

石帆（ウミマツ）有黄赤白三色弘景所説者石栢也△
水松（ウミマツ）〔集解〕弘景所説者石栢也

草之部 九 石草 十九種

石蘭（イワマメ、イワタスリ）〔集〕蚱蜢（イナゴ）
宗奭所説之小草或充遠志非也此所指廣何止遠志乎
石蘭似風蘭草也生巖石間大小有二種和者小成
也大者名木斛
骨碎補（シノブ可考）拠大明時珍説「漢渡唯一種真
也和ニモ間々有
石葦（ヒトツバ）本邦草肆所通用者非石葦乃瓦葦（ノキシノブ）也
金星草 一説葉之裏有星形者金星草無之者石
葦也〔釈〕七星草（別物）
鳳尾草 凡呼鳳尾草者有三種貫衆一名鳳尾草
金星草一名鳳尾草別一種載于群芳譜有大葉鳳尾

十五行

草貫衆類也与此別也有小雉尾草大蕨ノ類也一根
数十莖四散凡モノヲ鳳尾草ト云小ナルモノハカツヘル草也小鳳
尾草蛮名カツヘシサウ用之嗝噎ヲ治ス巴且杏鳳尾草氷
糖甘草細末而煉蜜ニテ用甚有功ト云フ
石長生（ヨメガハヽキ、ハコ子クサ）時珍之説ヨメカハヽキ
弘景之説ハコ子クサ
〔集〕瓏筋草（未詳）
〔附〕江茂草（三才圖繪所圖佳也江府道灌山不動堂後有）
石莧（未詳）一本イワシンシヤイハムメ鎌倉ノ道朝伊奈ノ切トウ
シ一行ク処ニ流アリ此処ニテ見此物
〔附〕石垂（未詳）
景天（ベンケイソウ、イチヤクサウ一本イチヤクサ）嵯峨ニテ
シヽフキ草ト云フ東武産茎葉黄色一名チトメ草葉
ヲヘイテ血止ニス故名
佛甲草（イハレンゲ、ツメレンゲ）

一本書入 霞邊景天 後藤梨春云ミセバヤサウ 花肆所呼

国立国会図書館 タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386
ガラス使用

虎耳草（ユキノシタ、キシンソウ）一種長葉石荷出物理小識
和名ヨユキノシタ
石胡荽（ハナヒ草ニ充非ナリ未詳）胡荽子一名原荽番名コ
エンドロ近世種子傳テ処々栽種之今所用多和産初生
葉円左而細小似茵蔯苗香葉開小白花張今結実土痘
家ヨタ用之
釈 鷄腸草（凡有三種救荒鵞不食草釈名鷄腸
草繁蔞一名鷄腸草石胡荽一名鷄腸草）
螺厴草（ツルマサキ、チトメクサ）此即蔓之杜仲篤信
山石豆ニ充
釈 鏡面草（カヾミクサ、ウツラクサ
一名翠雲草出圃史及閑情宿奇
酢漿草（スイモノクサ、カタバミ草、ス、メノハカマ）
釈 赤孫施（赤キスイモノ草ナリ八閩通志二山志曰赤孫
施一名歳寒漿与此物石灰ニカキマゼ和メ白帯ヲ治ス
地錦（ニシキソウ ニシキヾ）蔓生地錦ハツタナリ救荒

十五行

平野版

一所載ハケマシナリ
附 金瘡小草（充紫花児丁非也）本書作紫花児
疑脱丁字児当作地
離鬲草（未詳）救荒野譜ノ雀舌草也 秘物
仙人草（未詳）處々有之未詳
仙人掌草（イノモトクサ、和ノイワカ子）和名鷄脚草
形似貫衆好生井中河辺
崖椶（ヒトツボクロ）松岡子云クロヲモトニアラズ鷄頭翁
半天回（未詳）
紫背金盤（未詳）イトハスノ一種ナリ三才圖會所図佳也
集 酸筒草（即虎杖也）
白竜鬚（ホヤ可考）即女蘇也富士山中ニアルモノ美事ニシテノ
米ノ如シ一カ纏草ナルモノナリ

草之部十 苔類 十六種

国立国会図書館 タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386
ガラス使用

陸鷹（アヲソ、アヲミドロ）京都俗八百屋メヨレトヲフ水草也石髪一類也石上取ㇾ用メルヲ云

〔集〕鳥韮（ヤマシノブ有ㇾ向辺及ㇾ岳）

土馬駿（スギゴケ）姜柏（イハヒバ）

乾苔（ノリノ総名アヲノリ、アヲサトヲアシ、）苔類凡有三十六種又添七十二種及百余種詳一家言中一アヲサハ蛎苔（舎行）非ㇾ物

井中苔及苹蓴（井戸ノコケヨリ）順

船底苔（フナコケ、マクリ）

石葱（花コケ山苔コケ）濃々山中有之京西之愛宕山上尤多

俗呼物ヲホイロニ掛ケ（茶）菜トヲテ飲ムヨリ（誤虚ヲ秘傳

神隠曰蒙隠余嘗歩蒙山之峯而悲苔也其ヲ形如皮雨後地ノウハ

地衣草一（ジコケ）入梅ノ時分ノ苔也

ツラ日ニ乾ケハ子返ルモノヲ仰天皮トヲ云

垣衣（カキコケ）屋遊（ヤ子ノコケ）

昨葉何草一種スギコケ天台山中一有之本草ノ俗呼曰杉

苔也

〔附録〕紫衣（杯ホノコケ可ㇾ考）

白蘚（ホシラル苔）艾納（ハエ上）

鳥韮（ヤマシノブ山苔コケ）兼説ヤマシノブ在ㇾ向辺及ㇾ岳

附百菜（カナビキ）

土馬駿（スギコケ）姜柏（イハヒバ岩マツ）

〔附〕地柏（ヤウラノコケ秘物）倉生音羊（未詳）

玉柏 高野ノ万年草是ナリ

石松（キツ子ノヲカセ、サルヲカセ、ヒヤケカヅラ万年草ノ一種也）艾納（マツノコケ）

桑苑（クハノキノゼニコケ）〔附〕馬勃（ヤブメ（マ）ハラ、チトメ、ニセキツ子ノコヤブクロ）（イシノタ）汝菰（与馬勃ト同物）

草之部十一 雑草以上ノ諸品未詳故未ㇾ其大旨

節華（未詳菊名）白辛（杜衡欤）

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386
ガラス使用

吉祥草（クワンサウ）　蚕繭草（見温歌　タデモドキ）
筋子根（ヒルカホト同名）　田麻（高師近来処々有之）
小児群（石葦乎）　独脚仙（テンガノホウテウ可考）
透骨草　救荒所載益母草也本草墨姑有図本邦
処々有此物
醉米菜（ゲンゲハナ）　穀葉（カシノハ）
蛇眼草（イハカ子ニ秘物）　耳環草（鴨跡草ノ別名）
天芥菜（可考）　羊屎紫（出天名精附録）
山枇杷葉（イハナシ）　三角草（キヅタ乎）
葉下紅（紫背天葵一名）　満江紅（紫萍也）
刺虎（疑虎刺之誤乎トリトマニズ、オランゲホク）
漳蘭（チヤホラシ）
蒻枝草（可考）　墓頭回（救荒地花菜乎）

十五行

穀之部　一　麻麦稲類
胡麻　巨勝子（クロゴマ）　麻油脂（黒白共可之）
集　八稜者（クルマゴマ）　黄麻（一名大麻）
其紋鵝（マダラ白キ紋アルナリ）　壁虱（亜麻釈名）
大藜子（アカサ）　芫蔚子（益母草之実）
灰滌菜（アヲアカザ一名灰藋、秦滌藜アヲアカザ）
麻枯餅（ゴマモチ、ゴマノアブラカス）
青蓑（音箱ゴマノハ）　麻楷（グマノクキ）
亜麻（ヌメゴマ、アカゴマ）　俗名スツポンノシラミ
火麻仁　アサノ実也花アサ実アサノ二種アリ花開者不結実
蒙頭者結実ミアサト称ス是アサノ雌雄ナリ麻葉誤不可
食令人狂笑不止是又不可不知也
大麻（アサ）　上代五穀之一也食物本草云花名麻勃牡麻
無実牝麻有実
釈　花名麻蕡（時珍拠普説為実）　木（音品又

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386
ガラス使用

音派）〔集〕麻有花者雄無花者雌

小麦（コムギ）麦音脉絡而不絶之意秋種夏熟

経絶之穀也故春秋於他穀不書至無麦則書

〔発明〕孚甲　集韻作觚按稃之畧字正字通

云稃甲也穂也

浮麦（ミナシムギ）麦麩（カラムギカス）麦注麩者麦皮

也）麪筋（ハテ云麩之）麪（コムギコ）行厨

集曰麪曰蘆白束皙麪賦重羅之麪塵飛雲白

又玉塵幽懷録橘中有二叟棋戯一叟曰君輪

瀛川玉塵九解又曰麦塵細麪曰銀絲漿粉入于浮水

衣　麦牙（大麦ノモヤシ）制法詳本草

漢椒（イメサンシヤウ）麦粉（セウフ）麦麨（ホ

シイ、ノ類又コカシナリ）蘿（ヒタシモノ、キリツケ）

麦奴（クロボ、クロベト云）硝黄（朴黄ノ黄ナルヽ）

大麦（ヲ、ムギ）行厨集曰麦曰宿麦漢武帝記勧群

十五行

平野版

作屑（コニカヽ）
供合穀（コニセル）

種宿麦比他穀隔歳種故号宿麦又曰首種謂種

先他穀也

〔集〕裸麦（ハダカムギ）糯麦（シロムギ）蠼螋（ハサ

シムシ、シリサシムシ）曰恭花（ハゼニスルヿ）

穬麦（コウボウムギ）雀麦（カラスムギ、ジ子シコ）

〔釈〕燕麦（チヤヒキクサ）〔集〕莵葵（イチリンソウ）

蕎麦（ソバ）〔集〕湯餅（ウドン）河漏（ソバキリ）

苦蕎麦（イヌソバ、タソバ、ミゾソバ）佐州ニテ牛ノヒタヒ豊后

之俗呼曰牛面草

稻（イ子糯粳之通称）王象臣群芳譜穀部云稻一名

稌有粳有糯粳者硬也堪作飯作粥南方以為常食

北方為佳品礼記祭記謂稻為善蔬周官有稻人漢有

稻田使者蓋通粳糯言也粳即秔也粳之熟晩粳之小

者謂之秈々熟早云之早稻有早水晩三熟水早之類

云々　時珍食物本草稻字粳属也

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386　ガラス使用

〔集〕粢（モチアハ）神ヘ供スル洗ヒ米ヲ云俗シトキト呼餻之別名　粢糕（コメノダンゴ）　主治　芫青
班蝥（班猫中ノ青キモノニ）
駱駝脂　附方　木饅頭（木蓮ノ釈名）
粳（ウルシ子、ウルコメ）　光粳米甘平其粒粗大性堅助胃益精白粳米甘微寒性稍軟収成偏脱米中推為第黄茎
秈甘平氣香収成稍歉養営衛健脾和中煎湯可以止利天疳黄甘平性軟収成頗豊益胃与上同功陳者養不滞紅蓮米色赤甘平氣香性軟健胃和脾大益人元氣米中佳也今按紅蓮米即丹黍米也見黍米下
〔集〕廩米（クラニヲサメタル米）　炒米湯（コゲユ）
火米（ヲカタイトウ、ハタケイ子）　秧（サナヘ）
大菜（按菜菔子ヵ）　粳穀奴（クロボウ）
秈（タイトウコメ、ワセコメ）　米粃（即細糠也）

十五行

平野版

穀之部　二

稷（キビ。ウルキビ）　〔釈〕麻黍（当作糜）アカキビ
秬（クロキビ）　芝英（穄俗称之）芝ハ自ラワレイウルモノ英ハ甲ノヒラクモノ）　正誤　蘆穄（トウキビ）
黍（モチキビ）　〔釈〕蕚（アカキビ）
芑（シロキビ）　秠（モミノ中ニ二粒アルヲ云）
〔集〕以黍雪桃（孔子家語子路篇韓子等ニ見）
附方　女麹（マルカウシ）　鐵漿粉（未詳漿疑萃字乎）
蜀黍（トウキビ、タカキビ阿波方言）
玉蜀黍（ナンバンキビ）　〔集〕秕（シイ子）
椶（シユロノミ）　糯穀（学蔓）
粱（オヽアハ、シヽクハズ）　〔集〕消玉（玉ヲ細ユニスル如ク自由ニ色ニツカフヿナリ）
黄粱米（ヲヽアハ）　土番黄米粉（疑吐番乎）
附方　土蘓（大根タ子）

呂氏本云ナンバンキビトウモロコシ江戸方言カウラヒキビ讃州方言

一本シイナ

粟（アハ、ウルアハ）群芳譜曰穀粟米之連穀者本五穀中之一粱屬也北方直名之曰穀今因之晩穀則為米粟又曰小米

粟糠（ヌカ）　粟糗（アハノハツタイ）

秫（モチアハ）方書云酒者以其秫釀也

集　秈糯（ウルモチ）

穇子（クサビヘ）　集　如芟黍（マコモ）

蕪草（アシ類ナリ）人于按雀葦之屬爾雅曰蕪蔗芀ナリ

稗（イヌヒヘ）　集　鳥禾（クロヒヘ）　水稗（ミツヒヘ）

旱稗（ハタケヒヘ）

狼尾米（チカラクサ、ミチシバ俗名キツネツハナ）呂氏食物本草曰一名孟狼尾　集　作黍食（チマキ）

狗尾草（エノコヒクサ）　附録　蒯草（未詳）

東廧（未詳）　集　苗似蓬（蓬草子集解菰米釈名可考）　穄（即稷也）

菰米（マコモノミ）人良物本草曰即今芟白也

釈　雕（ハイ）　黍蓬（ハラヽヽキビノ類）

集　葦芀（アシノハナナリ）

蓬草子　菰之類乎　救荒云磚子苗是也

一本蓬　孔蓬草（ハラヨモギ　秋黄色　テンホウ）　稃（シブカハ）

飛蓬草（テンホウ）　蓬餌（ツヰモチ、クサモチ）

灰藋菜（アヲアカサ）　鶴頂菜（赤アカサノ）

茵草子（ミノコメ、エツタコメ）解毒ノモノナリ獣肉多食而渇者為飯食之則其毒消ス子如小麦東武未見之

蒜草（カサホウムキ）稲氏云一名海米行方孝孺文集曰海米乃是也

薏苡仁（ジユヅタマ、トウムギ）輟耕録曰一名草魚目壽世保元曰一名穿穀禾「菜性篡要曰莖葉即蔔蘆菜用ハトウムキト云テ皮薄百姓呼朝鮮麦者上品也今農取生

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386
ガラス使用

スルモノハ珠数玉下品ナリ 一時珍曰一種円而穀厚堅硬是
珠数玉ナリ 須知云菩薩有二種和名トウムギト云者真也
皮弱而色白肉厚粒大者也野生非真名川穀顛珠凡
云作念珠小児戯戯トスルモノ下品也 之時可通用也
集 芭茅（スヽキ） 釈 回々菜（米）（切支丹ノ国名）
薏米（此二物和名ジユズダマ世上多アリ下品也真ハ山城ヨリ
出ル上品ナリ凡四種アリ）
罌子粟（ケシ） 賽牡丹（ハナケシ）
集 髇頭箭（カブラヤ） 武備志云髇音考以骨作
之謂之髇髃 白芷（ケシアザミ）
麗春草（ビシンソウ、ヒナケシ） 八閩通志曰南仙一名麗
春花 粉紅（モヽイロ） 杏黄（キイロ）
阿芙蓉（ケシノヤニ、ケシノアブラ） 医宗粹言曰制阿芙
蓉法取鮮粟穀不拘多少搗爛以浄水砂鍋熬之搾
極乾査不用只以二斤浸火熬乾如膏加入炒黒文蛤末

十五行

平野版

調和成餅陰乾今世自西土来者非真物罌粟殻為
末調以五倍子偽之也 詳論呉球諸証并疑録
阿芙蓉之名鴉片又阿片和漢共可用漢渡者罌粟
殻之液粘ノミニアラズ青キ時殻共ニ併セ搗阿仙薬等
ヲ調和シタル有之宜詳

穀之部三 菽豆類十四種

大豆（マメ） 黄大豆同黒豆也有数種円者入菜用
集 烏豆（クロマメ） 班豆（クラカケマメ、ウヅラマメ）
発明 鼠狼（イタチ）一名鼬鼠 埜（音樊塵塕也）
塕塵起貞）
大豆黄巻（マメノモヤシ） 美（ケン）モ煎（チエン）ト云テ蘗（黄）山ニハ油揚ケノ料理
ニスルモノナリ
黄大豆（ミソマメ） 須知云アツキ有多類俗称ホコリアヅキ又
尾張アヅキト云者色甚赤カラス少帯灰色味極佳也

国立国会図書館 タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386
ガラス使用

以為上品

赤小豆（和名アヅキ）　堂豆（営刀切音学野豆謂之堂豆形如豆而小色黄蔓生）

腐婢（アヅキノハナ）凡有三種小豆花謂之腐婢葛花又謂之腐婢弘景所説一種木也以上三種

緑豆（フンドウ、ヤヘナリ）　緑豆粉一名索粉

集　摘緑（豆ノワセナリ）

白豆（シロアヅキ、シヤボンマメ）

穭豆（タンキリマメ、キツ子マメ）　野豆總名也国語不種而生謂穭

集　戎菽（コエンドウ）

胡豆（エンドウ）　鹿豆（ヤブンドウ）鹿霍一名

豌豆（シロエンドウ、ソラマメ）　常ノエンドウ之凡方書謂麻豆大者是也

集　先登（先ヘミノルヲ云フ）

翹搖（ノエンドウ）　発　澡豆（アライコ）

蚕豆（ソラマメ）大和方言ヤマトマメ阿波方言四月マメ

十五行

平野版

豇豆（サヽゲ）　十八豇（十八サヽゲ）出常熟縣志

裙帯菜（サヽケ出府志）

藊豆（インゲンマメ）一名鵲豆白扁豆白インゲンマメト称ス是又鵲豆之一種白色ナルモノ実形扁円之二種アリ扁ナルモノ可入薬用也

集　白扁豆（白インゲンマメ）　輟耕録云白扁豆名雪眉

刀豆（ナタマメ）　阿蘭陀人呼テソランチンムルト云フ

集　毛豆（南人多種之又黄大豆之類）　白刀豆

黎豆（ハツセウマメ、八石豆氏云テンヂクマメ）

集　鱉眼豆（楚中多種是也）　蚰蛇（ウハヾミノ属也）

穀之部四　造釀類　二十九種

大豆豉（カラナツトウ有二種）　塩豆豉ハ今云ハマナツトウ

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386　ガラス使用

淳美按当作火化一歯化二気化之字誤乎

淡豆豉ハ塩不入ノナツトウ入之藥用者是也

集 姜絲（シヤウガノハリ） 麩豉瓜豉醤豉（ホロミソノ類ヒシヲノ類）

豆黄（アメヲ子セルミ） コウジ） 醋澱（スノヲリ）

豆腐（鴻苞集云一名素名） 集 豆腐皮（トウフノウハカワ）

陳廩米（ウルコメ） 飯（メシ）

飧飯（ユツケメシ）

青精乾石飥飯（ソメイヽ） 仙人ノ食飯也 一火

粥（カユ） 標注云 蘇東坡云 飯食有三化一火化一歯化二気化三磨 木

粥得火之功不費歯嚼尤不費気化之力矣

蓮子粉粥（藕粉也） 油菜粥（アブラナノカユ）

葱豉粥（ヒトモシヽナツトウノカユ） 松子仁粥（朝セシ去ノ実ノカユ） 辣米粥（タカラシガユ則石竜芮也）

麻子粥（ヲノミカユ） 郁李仁粥（ニハサクラノミノカユ）

十五行

平野版

子ツクワシ 捻頭 環餅

此外粥名各畧之

麩（イリコメヽイリムギ） 麩粉ト云フ時ハコガシノヿミ

集 乾糗糧（ホシイヽ）

餻（篤信モチニ充ダンゴモチミ） 粢（ダンゴモチ）

糉（チマキ） 釈 角黍（キビノチマキ）

寒具（ヒグハシ） 盧謀楽法云事文徳集曰春祠用饅頭

餲餅穿丸秋冬又如之夏祠用乳餅 晋書云有飲食名寒具者於齊民要術食経中換得之今所謂環餅也 象環（ヒヂカ子）

乾麺（對湿麺云） 釈 餓（音今米餅属） 膏環（アブラアゲ）

蒸餅（アンナンノマンチウ） 事文徳集曰倦游録云今人呼煮麪為湯餅矣余謂凡以麪為食見者皆餅謂之故火焼而食者呼曰焼餅水滴食者呼曰湯餅篭蒸而食者呼為蒸餅而饅頭謂之篭餅云々 事文別集曰湯餅唐

本云 庚寅戊寅丙寅 (瘍世全書) 甲寅戊寅丙寅 (医宗粹言)

人謂之不飩今曰餺飩束晳餅賦云饅頭薄治起
溲穿丸之号惟饅頭至今名俘而起溲穿丸之号皆
莫曉何物薄持荀氏又謂之薄夜不知何物「方言曰餅
謂之飩或謂之饟或謂之餛○「景言曰蒸餅即俗名饅
頭釈名曰胡餅作之大漫洹也又言以胡麻著上「帰田録
温餅温麪也

附方 鳥竜尾(梁上塵名)

女麹(ヒメカウジ) 小麦ノ丸粒麹也 (マルカウジ)

黄熟(粉ニシテ子セル麹) 是モ小麦ニテ製スルナリ

緑塵(カウジノハナ、カウジノカビ)

麹(カウジ) 酒母(同上)

神麹 茶用之神麹也 輟耕録一名化米先生 丹溪心法

附餘有神麹造法 ○野蓼野生者ニ不拘家蓼可用

家蓼ノ野生スル者佳也野ノ字不可泥 「三奇日ハ甲寅

乙卯庚辰(以上)医塁元戎」「又医宗粹言モ同シ以辛辣為

可也須知云所賣製法多粗也宜自修合王好古医塁
元戎三奇製法詳又龔氏済世全書載之与此同也青蒿
不可用真青蒿黄花蒿可用入野蓼大蓼不可用
蓼ハ極辛辣者佳也家蓼可用野字不可拘也製神麹
法詳須知可見

紅麹(ベニカウジ、アカカウジ)

蘗米(コメノモヤシ) 飴餹(アメ) 飴(シルアメ)

錫(カタアメ) 粔籹(メガ子ノカタニツクリタルモノ)

蜜餌(以蜜和米麹作之)

醬(ヒシヲ) 集 豆油(シヤウユ)

麻滓(ゴマノスリカス) 附 醬瓣(醬面滓皮乎又醬
糟乎)

榆仁醬(ニレノミニテツクルヒシヲナリ) 能殺也

蕪荑醬(山ニレニテツクルヒシヲ) 蕪荑今本邦ニナシ先
年稲荷即旅所ニ在似榆有臭氣百姓是ヲキル故無之漢

国立国会図書館 タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386
ガラス使用

渡有

醋（ス）　華池左味（華池ハ口ヲ云左味ハムマキナリ）

〔集〕三伏時（三日三夜ナリ一伏時ハ十二時ナリ）

醋泥（スノヲリ）

酒（サケ）　梅香酎（ムメサケ）　造法詳見事文続集

〔附〕諸酒方以下撮其大槩記之其未詳者闕之

屠蘇酒　月令廣義云遜思邈曰屠割也腐也又曰屠者滅鬼氣蘇醒人氣

逡巡酒　逡巡速也此酒片時可就故名

仙昊藤酒（威昊仙酒）

菊花酒　続博物志五云菊花節時採莖葉雜黍米釀之至来年九月九日始熟謂之菊花酒

莎根酒（香附子ノ根ヲ浸ス酒）　百部酒（キジカクシヲ浸ス酒）

南藤酒（ヤマガキ校正ツルムメモドキ）

松液酒（マツノヤニ）　松節酒（コヘマツノフシ）

十五行

平野版

三農平地山沢也

柘根酒（ヤマクハ）　蚕沙酒（カイコノフン）　花蛇酒（マムシ）

豆淋酒（黒一豆ノ下紫酒一名ナリ）　烏蛇酒（カラスヘビ）

蚺蛇酒（ウハバミ）　蝮蛇酒（マムシ、ヤトウシ）

糜骨酒（クジカ）シリカノホ子　羊羔酒（ヒツヂ）　消梨（ミヅナシ）

即香水也　〔梨〕　霹靂酒（銭ヲ炙テ酒中ニ入レジユツト

イハセタルサケ）　巨勝酒（クロゴマ）　紫酒（豆淋酒）

枳茄酒（枳殻竹茹）

燒酒（セウチウ）

葡萄酒　漢ヨリ渡ルチンダ酒ト云是ナリ　チンダハ古キヲ云也

〔集〕蛤蜊（即女直也）

糟（サケノカス）　〔発明〕設水陸（セガキノ丁水陸會氏云）

米粃（シイナ）

舂杵頭細糠（キ子ノサキニツクホソキヌカ）

三農　周礼天官冢宰上大宰之職曰以九職任万民

一曰三農生九穀二曰園圃抵草木注鄭司農云九穀黍

特1
3386

稷秫稻麻大小豆大小麦三農原隰及平地九穀無秫大麥而

有粱苽

玄謂

本草綱目記聞卷之二終

十五行

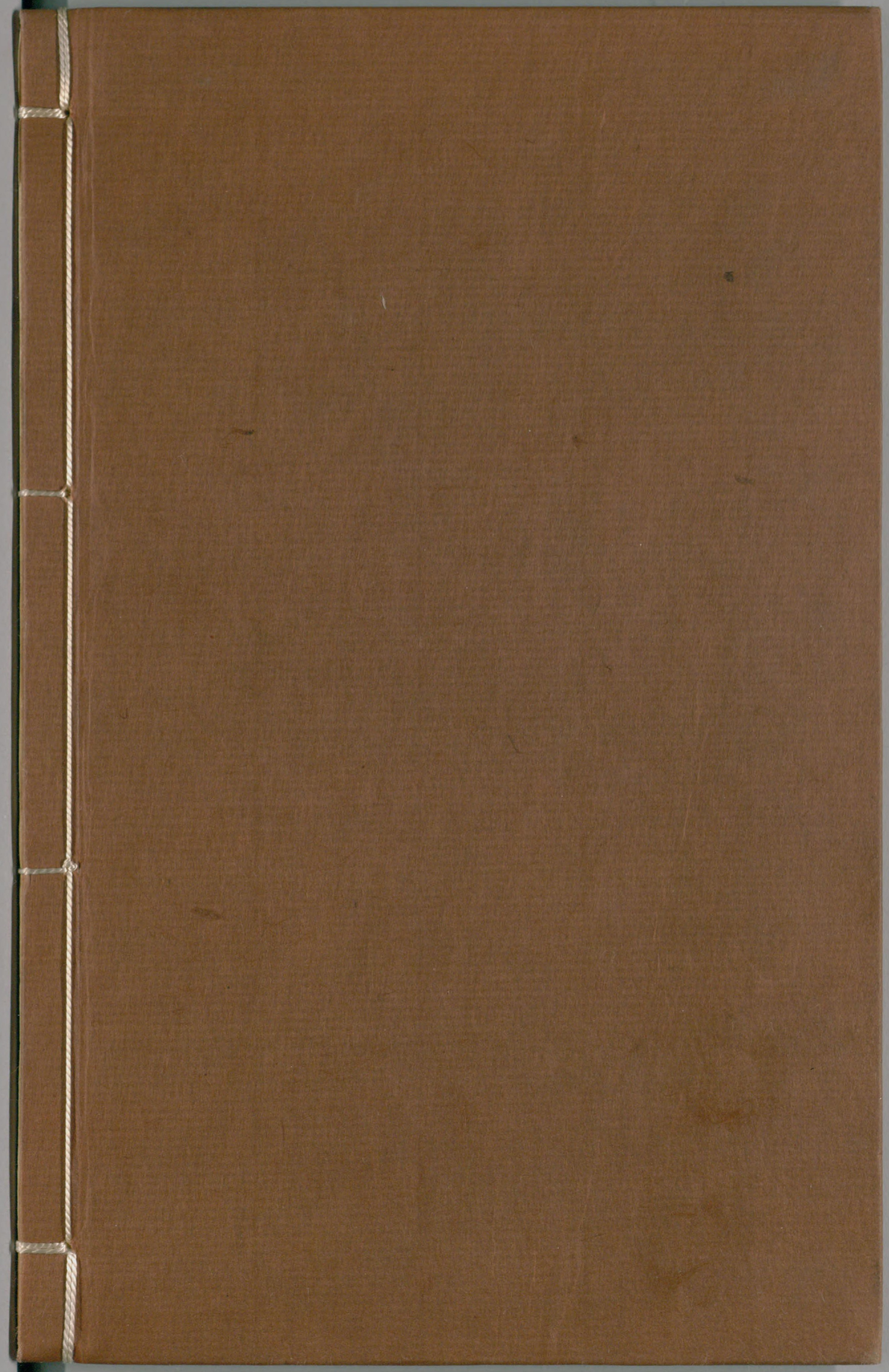
平野版

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386
ガラス使用

特1
3386

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386

ガラス使用